

横浜の農業の概要

1 横浜の農地

横浜市内には、市域の約7%に当たる2,850haの農地があり、主に市内の3,451戸の農家が耕作しています。農地の約93%は畑で、主に野菜や植木、果樹が栽培されています。田は農地全体の約7%しかありませんが、生産の場としてのみならず、洪水防止や水源涵養、気候緩和や生物多様性の保全などからも貴重な存在となっています。

市内の水田は、鶴見川中流の谷本川、恩田川とその支流、境川及び柏尾川とその支流の沿岸に分布しています。畑は瀬谷区から泉区西部に広がる相模野台地の平坦面と、市北部から中部、南東部にかけての多摩丘陵・三浦丘陵の一部をなす横浜南部丘陵の緩傾斜地を造成した部分にあります。これらの田畑とも周辺の開発の影響を受け減少してきました。

現在、農地面積の8割強にあたる約2,350haは市街化調整区域にあり、このうち約1,000haが農業振興地域の農用地区域に指定されています。また、農用地区域を中心に、横浜市独自の農業専用地区が28地区約1,070ha指定されており、農業生産の中心になっています。

さらに、住宅地に近接する市街化区域内にも約500haの農地があり、このうち約280haが生産緑地地区に指定されています。

※ 数値は、農家戸数は「平成27年農林業センサス」（農林水産省）、農地面積等は「令和2年1月1日固定資産概要調書」ほか（横浜市）による



横浜市の田園風景(左:戸塚区、右:泉区)

2 横浜の農家

横浜市内の農家数は3,451戸で、全国1,741市町村中145位になります。このうち約4割は自給的農家で、残り約6割の2,029戸が販売農家です。販売農家のうち、農業だけで生計を賅っている専業農家はその半分弱の918戸で、全国79位です。

2,029戸の販売農家の世帯員のうち、農業を仕事の主とする農業就業人口は4,482人で、全国1,741市町村では67位です。販売農家1戸当たりの農業就業人口は2.2人で、全国169位です。

※ 数値は、「平成27年農林業センサス」（農林水産省）による

3 農業生産

市内農家の農業産出額は約 112 億円と推計され、県内では第 1 位、全国 1,719 市町村中でも 226 位になります。いも類を含む野菜類が約 80 億円で農業産出額の 7 割強を占めており、全国 58 位です。続いて、果実が約 11 億円で約 10%、畜産が約 9 億円で約 8%、花きが約 8 億円で約 7%、米・麦・雑穀・豆類などは合わせて 2 億円弱で約 2% です。

※ 数値は、「平成 30 年産市町村別農業産出額（推計）」（農林水産省）による

■野菜類 🥬

キャベツ、だいこん、ほうれんそう、トマト、こまつな、さつまいも、じゃがいもなどの生産が多く、多品目が栽培されていることが特徴で、市場出荷とともに、直売も盛んです。



■果樹 🍇

「浜なし」のブランドで知られるなしを中心に、ぶどう、かき、うめ、キウイなどの栽培が盛んで、他にみかんなどの柑橘類やブルーベリーなども栽培されていますが、ほとんど市場には出荷されず、直売されています。



■花き類 🌸

切花はほとんどありませんが、シクラメンなどの鉢物やパンジー、ペゴニア、マリーゴールド、ペチュニア、ニチニチソウなどの花苗の生産は全国屈指のものがあります。



■畜産 🐷

規模は大きくないものの、酪農・養豚・肉牛・採卵鶏など多彩に行われ、「はまポーク」・「横濱ビーフ」といったブランドがあります。

